



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 : ⑭ 認知症 (2) 認知症の分類

京都府南丹保健所長 時田 和彦

認知症の続きです。今回は認知症全般についてと、認知症の物忘れと一般人の忘れっぽいことの違いを書きました。今回は主な認知症の原因から。

認知症の原因は以下の通りです。頻度の多い順からアルツハイマー病 (AD: Alzheimer's disease) による認知症、血管性認知症 (VD: Vascular Dementia)、レビー小体型認知症 (DLB: Dementia with Lewy Bodies)、前頭側頭型認知症 (FTD: Frontotemporal Dementia)、その他 (硬膜下血腫、水頭症、甲状腺機能低下症、ある種のビタミン不足など) の順です。頻度は調査時期等により多少違いますが、AD が全体の約 2/3 を占めます。

認知症の原因となる上位 3 疾患を比較すると、いずれも認知症の症状が出現しますが、疾患ごとに特徴があります。アルツハイマー病は女性に多く、多くは物忘れから発症します。記憶障害を取り繕う、もの盗られ妄想が出現することもあります。次第に徘徊が出現します。

血管性認知症は男性に多く、脳梗塞や脳出血を繰り返すことにより、次第に認知症の症状が出現します。そのため患者さんによって四肢の知覚障害や麻痺など、合併症に差があります。感情のコントロールがしにくくなるのも特徴です。

レビー小体型認知症では、パーキンソン病でみられる四肢の震え、筋肉のこわばり、動きが鈍くバランスが悪いなどの症状をよく伴います。はっきりとした幻覚を見ることがある (例えば、部屋で子供が踊っている姿がはっきり見えるなど) のも特徴の一つです。